

区政と議会のホンを報告!

せたがや $\frac{1+2}{52}$

〒157-0063 粕谷 3-15-3 (TEL&FAX 3307-1179) ↑ 52 は議員定数、1 は私、+2 は会派メンバー。

<http://www.t3.rim.or.jp/~110ban/>

せたがや政策会議

区議会議員 **おおば正明**

第 42 号 2009 年 2 月



職員数 5210 名、年功序列、終身雇用、完全退職金付き

検証 公務員の給与

世田谷区役所 平成 20 年の年収 (平成 20 年 1 月～12 月分)

世田谷区の役人の年収

【役職】	【最高額】	【平均額】	【在職者数】
部長	1399万4461円 (58歳)	1286万6100円 (57.0歳)	45名
統括課長	1202万4774円 (53歳)	1156万5324円 (54.4歳)	31名
課長	1165万0710円 (54歳)	1090万0029円 (51.2歳)	79名
総括係長	1044万7840円 (59歳)	913万6982円 (54.9歳)	229名
係長	1013万6065円 (55歳)	833万0516円 (49.4歳)	654名

●統括課長とは課長職 6 年以上で部長有資格者、総括係長は係長の中でも困難度の高い係長と区側は説明・・・

民間の悲鳴とは無縁の終身雇用と年功序列給与

大不況を実感しない公務員

■「公務員は安い給料で働いている」なんてウソ! ■高度成長期を経て以降、上場企業並み、そしてバブル崩壊後はそれ以上の水準で“高給”が続いています。(23 区の公務員給与は人事院ならぬ、“23 区人事委員会”で事実上決定) ■参考基準は 23 区内の 50 人以上の事業所約千力所ということですが実態は不明 ■もちろん給与に値する有能な公務員もいるので一概に高すぎるとは言えません ■しかし、現状ではどの職員も定年直前に年収 1 千万円というコースが出来上がっています ■民間との比較でわかりやすいのは技能系という公務員。ここでは年数だけで給与が上昇します。この技能系には課長とか係長というものはありません。(例えば学校の用務員には課長とか部長というポストはありません) ■技能系は区民から見て民間との比較がしやすいと思います。世田谷区では技能系公務員は、現在 1049 名 ■技能系公務員だけでなく行政職と言われる事務職でも、“万年ヒラ”で定年時には年収 1 千万です ■技能系公務員については採用をストップし、徐々に減りつつあります ■しかし行政職について

技能系の最高年収 同業種の在職者数

職種	最高年収	年齢	在職者数
運転手	936万9779円	(59歳)	10名
介護指導	803万6808円	(57歳)	21名
電話交換	813万0632円	(58歳)	10名
警備	883万9946円	(59歳)	73名
土木作業	906万6292円	(56歳)	68名
調理	807万4318円	(56歳)	197名
用務員	815万4193円	(57歳)	241名
学童擁護	776万0601円	(60歳)	33名
地区会館作業	857万4217円	(60歳)	18名
清掃車運転	918万6321円	(58歳)	59名
車整備	790万9220円	(44歳)	2名
清掃	996万9580円	(59歳)	284名
その他も含めて			1049名

※中途採用で勤続年数がバラバラの場合一定ではない。

は仕事の実態がわかりにくいので目立ちません ■何年か前に残業代だけで 300 万近くせしめている職員を問題にしたことがあります ■公務員は完全「終身雇用」です。しかしながら公務員はどうも、「終身雇用」の“意味”を軽く考えているようです ■公務員は経済状況がどうであれ給与は毎月口座に振り込まれます ■遅配もなければ倒産もありません ■「終身雇用」というのは区民が公務員に与えた権利ですが、そのかわり、区民への奉仕者として身を粉にして働いてくれ、という約束であると思います ■そのことを忘れていたらまさに“役人天国”です。

平成 21 年度 世田谷区 予算 2417 億円 人件費 540 億円 世田谷区職員数 5210 名

■世田谷区民が払う区民税は 1157 億円 (区民税は昨年の年収に課税。金融不況の影響は再来年度から本格的に) ■その区民税 1157 億円を基幹財源として 23 区共有の固定資産税の分配金 (財調交付金 399 億円) ■保育料その他の施設等の使用料 48 億円 ■消費税の世田谷区分他の 150 億円 ■それに貯金取崩の 84 億円 ■借金 40 億円 ■そして国や都からの負担金・補助金等 446 億円をあわせて合計 2417 億円の予算となります ■以上が予算の入り部分 (歳入) で、そこから支出で最大なのは人件費の 540 億円です。

予算 2417 億円の歳入内訳

区民税	1157 億円
23 区固定資産税分配金 (財調)	399 億円
使用料収入	48 億円
地方消費税・他	150 億円
繰入金 (貯金取崩)	84 億円
区債 (借金)	40 億円
諸収入	92 億円
国都支出金	446 億円
その他	1 億円
合計	2417 億円

※区民税には軽自動車税・たばこ税を含。
※地方消費税・他には地方譲与税・利子割交付金・配当割交付金・自動車取得税交付金を含。

23 区の中で世田谷区の財政安全度は?

財調依存度

行政区	依存度	人口	議員数
荒川区	49.1%	19万	32人
足立区	47.3%	65万	50人
葛飾区	46.1%	44万	40人
江戸川区	45.4%	67万	44人
墨田区	40.4%	24万	32人
北区	37.9%	33万	44人
江東区	37.9%	45万	44人
板橋区	37.2%	53万	46人
練馬区	36.5%	69万	50人
中野区	35.1%	31万	42人
台東区	33.8%	17万	32人
豊島区	33.3%	25万	36人
文京区	31.0%	19万	34人
大田区	30.8%	68万	50人
品川区	28.4%	35万	40人
杉並区	24.0%	53万	48人
中央区	22.1%	11万	30人
新宿区	21.1%	31万	38人
目黒区	18.3%	26万	36人
世田谷区	16.4%	84万	52人
千代田区	15.2%	4万	25人
渋谷区	1.1%	19万	34人
港区	0.0%	21万	34人

■区民税の法人分 (本社所在地)、固定資産税、特別土地保有税、事業所税と都市計画税は各区の直接の歳入にはなりません ■これらの税は“調整税”として東京都と折半し、残りを 23 区の行政平準化のために分配されます ■この仕組みを財調 (財政調整制度) と言い、依存度が高いほど区民税 (法人分を除く) が少ないということです ■確かに法人の本社は千代田区や港区、中央区あたりに集中しています ■しかもこの財調は景気の変動を受けやすいので不況になれば急激に全体の総額が少なくなります ■具体的に言えば左の表 (2008 年決算ベース) の通り依存度が低いほど安定的な財政基盤ということになります ■人口規模から考えれば世田谷区は非常に安定しています。

借金や貯金はどうなっているか?

借金残高と将来見込み

年度	借金残高
平成 20 年度	813 億円
平成 21 年度	751 億円
平成 22 年度	715 億円
平成 23 年度	679 億円
平成 24 年度	638 億円

■区の借金である特別区債の発行残高は今年度末 813 億円 ■一方貯金にあたる基金残高は平成 19 年度末の 717 億円をピークに今年度末は 694 億円に ■23 億円減少 ■一般会計予算規模 2417 億円、区民税 1157 億円に比べれば、借金、貯金ともに、いわゆる“年収の範囲”であるが・・・ ■問題は百年に一度の大不況に、機動的に運用できるか、使うべき時に使わなければ、貯金も単なる“観葉数字”に終わってしまいます。